

令和6年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

山形県立米沢興譲館高等学校

スクール・ミッション	『「興譲」の精神』（自他の生命を尊重する精神、己を磨き、誠を尽くす精神、世のために尽くす精神）のもと、高い志を持って、積極的に地域や世界の他者と協働しながら、果敢に挑戦し新しい価値の創造に向け貢献していく、次代のリーダーとなる人材を育成します。
目指す生徒像	『いのちを尊び、新たな価値創造の志を持ち挑戦する生徒』 1 自他の生命を尊重し、調和のとれた人間性豊かな生徒 2 謙虚に学ぶ姿勢を身につけ、高い志を持ってその実現に向けて努力する生徒 3 次代のリーダーとして、自立し、世のために尽くそうとする生徒
重点目標	1 自立に向けた生徒指導の展開 2 学力の向上 3 探究型学習の推進 4 進路指導の充実に向けた職員体制の強化 5 学習環境の整備と健康・安全教育の推進 6 魅力ある開かれた学校づくり 7 校務の情報化の推進 8 健康管理、働き方の改善と教職員倫理の醸成

【評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった】

番号	評価項目	自己評価		達成度	次年度に向けた改善策	学校関係者評価	
		具体的方法と指標・基準	今年度の成果と課題			意見・要望・評価等	
開1	自立に向けた生徒指導の展開	・自他の生命の尊重と違いを認める態度の育成 ・学習指導、部活動、学校行事、生徒自治会活動とおとした自主的・自律的な活動の推進と「果敢に挑戦する」態度の育成 ・探究型学習の成果等に基づく社会貢献の態度の育成 ・自己効力測定尺度を生かした自己理解の醸成、タイムマネジメント力を高める指導方法の工夫・改善	・自他の生命を大切にしながら、周囲と良好な人間関係が構築できるよう支援する。 ・いじめ防止アンケート、スクールサイン、面談により、いじめを早期に把握する。いじめが発生した際は、実効性のある再発防止策を講じる。 ・外部連携の情報を速やかに共有し、外部教育資源の活用を推進する。 ・各分掌と情報を共有し、機会を捉えた生徒状況の把握により、諸問題を早期に見出す。 ・いのちの講話及び各種講演会等とおして、いのちの講話を速やかに共有し、外部教育資源の活用を推進する。 ・自転車ヘルメット着用推進モデル校として、興譲祭や交通街頭指導などで着用の呼びかけを行う。	B	・いじめ防止については学年団や生徒課を中心に更にきめ細やかに取り組んでいく。 ・「生徒心得」について入学予定者説明会等を活用し、理由も含めた丁寧な説明が必要である。 ・学年会等で生徒の状況を共有し、個々の生徒がタイムマネジメントできるよう指導の工夫を図る。 ・重大事故の防止に向けて、交通安全ルールの徹底と規範意識の醸成に努める。生徒自治会役員を中心として、自転車ヘルメット着用率向上に向けて作成した動画を効果的に活用する。	・説明の量が膨大で何を重点にしているのかわからない。多くの言葉がありすぎて、どうつなげるのかわからない状態である。もう少しすっきりした形にして、「今年はこちら」と絞って教員間で共有されることより魅力ある学校になるのではないかと。 ・「醸成する」が評価項目に入っている、その項目がA評価になっているので、改善してはどうか。評価は数値目標にして、それに向けての対応策を練る、その後うまくいったかどうかを検証するという仕組みを作ったほうが良い。	
2	学力の向上	・「興譲館3DOC」を目標に掲げた「自己効力」を高める指導と評価の実践 ・「考える力」の向上と主体的に学ぶ姿勢の育成に合う教科指導力の向上 ・観点別評価とおした個々の生徒の資質・能力を伸ばす指導と評価の充実 ・一人一台タブレット端末を活用した学習指導の工夫・改善 ・普通科、探究科のねらいを踏まえた教育課程の実践と教科指導力の向上	・学習の到達目標をBに置く3観点別学習状況の評価の実践と評価Aのための指導方法と学習レベルを明確化する。 ・学びの自走（主体的な学び）の仕掛け作りと、一人一台タブレット端末を授業及び評価で有効に活用する。 ・シラバスを用いて各科目の学習内容・評価方法等を生徒・保護者等へ周知する。 ・新教育課程完成年度としての実践・検証と校内研究授業・公開授業の実施・共有を行う。 ・生徒による授業評価（年間2回）をおして、教員が自身の授業を振り返り、授業改善に取り組む。	B	・教科ごとに評価方法等の研究をおして指導法のブラッシュアップを図る。 ・一人一台タブレット端末を活用した授業の普及・拡大に努める。 ・現行の教育課程を分析・総括し、見直しの議論を進める。 ・時間割と連動したe-教務の使用及び出席簿の電子化の導入を進める。	・自転車ヘルメットの着用率は学校での指導によるところが大きいのではないかと。数値目標を評価の基準にして、100%着用をA評価とするなど、少し厳しい数値目標を設定して、その達成に向けて何が出来るかを検討してほしい。親の意識変容もあるので、生徒自治会などを利用して一大キャンペーンをしてはどうか。そのような動きは、学力向上にもつながると信じている。	
3	探究型学習の推進	・ESDエキスパート制による探究活動の充実と「未来創造プログラム」の推進 ・SSH第IV期中間評価とおした成果検証と取組の改善・充実 ・ユネスコスクール加盟校としての取組の充実	・電子メール、Google Classroom等の活用し、各種イベントへの積極的参加を促す。 ・ESDエキスパートコースリーダー会議を適宜開催し、生徒の研究情報の共有と課題の確認を行う。 ・SSH事業や探究活動をSSH FacebookやSSH通信をおして積極的に発信し、各事業の魅力化と拡充を図る。 ・生徒研究発表会のオンデマンド配信体制を構築し、他校からのフィードバックを指導の工夫・改善につなげる。 ・実施している事業内容に関して、各職員へのヒアリングを行う。 ・国際探究科の指導法のノウハウを構築する。 ・ユネスコスクールキャンディデートとしてグローバル人材の育成を推進する。	A	・探究活動をさらに充実させ、個々の生徒の進路実現とキャリア形成につなげていく。 ・物価上昇の影響もあり、SSH予算が例年以上に逼迫しており、予算の調整が必要である。 ・SSHとユネスコスクールキャンディデートの事業の趣旨や目的を整理し、本校の探究活動体系を確立する。 ・SSH中間評価ヒアリングでの改善点の見直しを図るべく、「米沢興譲館評価におけるグランドデザイン」の作成に取り組む。	・「興譲館生のプライド」をうまく指導してほしい。シートベルトですら罰則規定によってようやく定着した。自転車ヘルメット着用も長い時間が必要かもしれないが、短時間で効率よく着用促進につながる方法を教育振興会の中でも考え、協力してほしい。（講習会や啓発活動など）	
強4	進路指導の充実に向けた職員体制の強化	・個々の進路希望の実現に向けた組織的支援体制の充実 ・キャリア教育実践プログラムの改善と高い志を育む指導と系統的な進路指導の充実 ・大学入試制度に対応した進路指導体制の充実 ・「生徒未来創造会議」、「生徒情報共有会議」の工夫改善、分掌、学年間の連携強化	・KITメンバーを早期から集団化し、挑戦する志を育成し、学力の向上を図る。 ・KIT、友子会ともにグループ指導による横のつながりを構築する。 ・友子会を継続することによって志望者、受験者を増加させる。 ・学年団と連携して、生徒面談を実施する。 ・進路室常駐教員を中心とした面談体制を整備する。 ・探究課、教務課と連携を図りながら、キャリア教育実践プログラムの改訂を行う。 ・新課程入試等に関する研修会へ積極的に参加し情報収集、情報共有を行えるような環境づくりに努める。 ・全職員での指導を拡充し、学校推薦型選抜・総合型選抜出願生徒のサポートを行う。	B	・1学年のKITメンバーの選出にあたって、活用サポートの結果を効果的に活用する。 ・友子会の解説やミーティングの実施方法について検討が必要である。年によって差が出ないような指導体制の構築が必要である。 ・模試成績を活用した面談では、実効性のある学習方法をKITや友子会の生徒に提示する。 ・学校推薦型・総合型選抜では、共通テストや科目試験を課すところが増えている。志望理由の深まりはもちろんのこと、学力向上も含めての指導を継続する必要がある。 ・学校推薦型・総合型選抜の活用について、安易な出願とならないように学年団と協力しながら引き続き指導していく。	・大学生に「大学でどんな勉強をしたか、力を入れたことは何か」と聞くこと、多くの生徒が「アルバイトに専念した」と答えるようだ。それが大学生のアルバイト材料になっていることに疑問を感じている。大学生活の有り様をききと指導してほしい。また、奨学金の返済が進まない生徒もいる。経済感覚が変わってきたのだから、アルバイトで褒められる→責任感ややる気の芽生え→昇給によってアルバイトにはまりやめられない、という状況のようなこと、アクセルとブレーキの踏み方などの指導をしてほしい。	
進5	学習環境の整備と健康・安全教育の推進	・創立140周年記念事業をおとした史料室の整備 ・検診や健康調査、教育相談を活用した健康管理能力の育成 ・教育相談体制及び支援を要する生徒理解に係る組織体制の充実 ・危機管理体制の検証・整備と施設設備の安全点検の推進 ・校舎内外の清掃の徹底と美化活動の推進	・令和6年度に立ち上げた創立140周年記念事業準備委員会や外部組織と連携し、史料室の整備を進める。 ・配慮を要する生徒の情報を職員間で早期に共有し、チームとして対応に当たる。 ・教育相談、適応支援を推進する。スクールカウンセラー予定表を全校生徒に配付し、保護者への周知を図る。 ・「カウンセリング通信」の配付及び特別支援に係る情報発信を行う。 ・様々な場面を想定した「避難訓練」を効果的に実施し、生徒の防災意識と実践力を高める。 ・学校安全の日を中心に、毎月の安全点検を実施する。 ・清掃強化週間を年間4回設定し、美化委員会による清掃点検を実施する。	A	・図書館の史料や書籍以外の史料について整理し、令和7年度内に史料室整備事業を完了する。 ・現行の健康観察は、毎日の回答率が非常に低いため、さくら連絡網を活用した形態を検討し、回答率の向上を目指す。 ・熱中症への対応の仕方、協力体制等については、早い段階で全職員に提示し対応する。 ・令和6年度から水曜日の清掃をなくしたことによる火曜日と木曜日、定期評価前後の清掃を丁寧に行う指導が必要である。	・探究活動発表会に参加したが、生徒の表現力が素晴らしい。これからはもうそうした指導を続けてほしい。	
6	魅力ある開かれた学校づくり	・スクール・ミッション、3つのスクール・ポリシーの周知、教育活動の検証・改善 ・アドミッション・ポリシーに即した入選制度の検討、育成する生徒像の周知 ・各種評価および学校評議員会の効果的な実施と校務の改善 ・保護者、地域自治体、地域住民との協働による社会に開かれた教育課程の推進 ・生徒の活躍、教育活動の成果をより活発に発信する広報活動の工夫と充実 ・説明責任に基づく事務処理	・各種行事をおして、生徒の自己効力の高揚と「興譲の精神」の意識の高揚に努める。 ・生徒の将来への励みとなる講師を選定し、記念講演会の充実を図る。 ・同窓生の人的資源の活用を図る。 ・生徒による年2回の授業・学校生活評価、保護者による学校評価、及び教職員による自己評価を実施し、授業や教育活動の改善に取組む。 ・年2回実施する学校関係者評価委員会、SSH運営指導委員会をおして、各専門領域からの指導・助言・評価内容を本校教育活動改善へ反映させる。 ・学校ホームページ、フェイスブック、インスタグラム等を活用し、迅速な情報発信に努める。	A	・創立記念講演会における本校同窓生の人材活用を今後も継続する。 ・「さくら連絡網」やインスタグラムを効果的に活用し、生徒の活躍や学びの成果に係る情報発信を継続する。 ・教育振興会総会や中学校教員対象学校説明会、米沢興譲館探究フェスティバル等を活用し、次年度も本校の特色ある教育活動を広く公開する場面をつくっていく。	・この学校は、人材を育てることを忘れずに頑張っていた。SNSなどを使い、中学生が興味を持つような学校の取組みを発信した方がよい。 ・授業などの革新を感じる。評価もよく人材育成の努力を感じる。	
推7	校務の情報化の推進	・「さくら連絡網」を全生徒・保護者・職員が登録し、効果的な運用と活用を図る。 ・県立学校職員勤務管理システムのパイロット校として、職員のニーズに応じた体制整備を目指す。 ・デジタル採点ソフトを積極的に活用し、業務の効率化を図る。	・創立記念式において、本校同窓生による講演会を実施した。運動学の視点から生き方について語っていただき、生徒の意識改革につなげることができた。 ・「興譲館だより」を年間2回発行し、地域の中学生にも幅広く本校生徒の活躍を紹介できた。 ・SSHコーディネーターが着任し、本校のフェイスブックで本校における探究活動の学びの成果を発信できた。 ・本校のホームページの更新が遅れ、タイムリーな情報発信ができなかった時期があった。 ・本校のインスタグラムで、本校の教育活動を広く発信したことで、フォロワー数が倍増した。	A	・米沢興譲館ポータルサイトを効果的に活用し、業務改善を推進する。 ・校務用タブレット端末により、出席簿の電子化に着手する。	・校舎が寒い。トイレについても改善をお願いしたい。	
理方8	の健康と安全管理、職員の働き	・定期健康診断結果を踏まえた健康管理の徹底 ・円滑な業務遂行に向けた教職員間の改善策の共有と実践 ・働き方改革プラン、部活動活動方針を踏まえた一層の業務改善 ・校内倫理委員会とおしたコンプライアンス遵守と教職員倫理の醸成	・職員会議や日常の職員打合せの中で、適時的に綱紀粛正について触れる。 ・必要に応じて管理職による職員面談を行い、職員の心身の健康を保持し、活き活きと働ける職場環境をつくる。 ・部活動方針に基づき、適正に部活動を実施する。 ・校務分掌の分担化・分散化・明確化を図り、業務への負担感を軽減する。	B	・働き方改革プラン第II期の目標である「半期における時間外在校等時間の月平均が80時間を超える教職員0人」を達成できるよう、教職員一人ひとりの健康管理とマネジメント力を高める取組が必要である。	・進路の多様性についての情報発信などをぜひお願いしたい。地元の良いところをしっかりと伝えていただきたい。	

自己評価、及び学校関係者評価に基づく改善点や検討事項等、他	1 学力の向上、探究型学習のさらなる推進 ・観点別評価とおした個々の生徒の資質・能力を伸ばす指導と評価の充実 ・確かな学力の育成に向けた指導力向上に資する研修等の充実 2 令和6年度SSH第IV期中間評価ヒアリングを受けての改善、地域との協働・研究成果の普及及びユネスコスクール・キャンディデート事業と国際教育の推進 3 進路指導体制の充実・強化 ・大学入試制度の変更に関する情報収集 ・学校推薦型・総合型選抜等、多様な入試制度への指導体制の構築 4 校務の情報化の更なる推進 ・校務用タブレット端末を活用した業務改善 ・情報環境の整備と見直し
-------------------------------	---